

三木町就学前の子どもの教育・保育のあり方検討委員会

第7回会議議事概要

- 1 日 時 令和3年3月30日（火）
- 2 開 会 午後1時30分
- 3 閉 会 午後2時45分
- 4 場 所 三木町防災センター 3階 大ホール
- 5 出席者（委員）津山勝義、阿野秋子、杉山恵子、石濱敏男、大森智秋、
上岡佳代、山地茂之、穴吹直子、久米美佳、高松和範、馬場正光、
伊藤町長、森教育長（事務局）こども課：美馬一生、塩津利幸、
宮武尚美、大下美幸、安西美香、道官丈晴、内田博子

6 会議経過

- (1) 開会
- (2) 町長あいさつ
- (3) 議事

① 最終答申（案）の検討について

これまでの本委員会での検討内容及び中間答申の内容を踏まえ、最終答申（案）について検討した。各委員から出された意見等の主な内容は下記のとおり。

- ・令和3年度の就学前施設の利用申込数の減少については、コロナ禍の影響をどこまで受けているのか具体的な分析はできていないが、想定よりも大きく減少していると感じる。
- ・分園式の認定こども園化にあたっては、老朽化した既存施設の改修や保育所で慢性的に不足となっている幼児用トイレの改修等に努めてほしい。また、現時点で保育室として利用している保育所の遊戯室についても、本来の遊戯室として早期に利用できることを望む。
- ・就学前施設と各小学校との連携の下、小1プロブレム解消に向けた取組を促進し、円滑な接続に努めることが望ましい。
- ・認定こども園化にあたっては、幼稚園教諭と保育士といった現場職員の意見を含めて準備や検討を行うとともに、幼稚園教諭と保育士が同じ職場の中で共に働きやすい環境づくりに努めることが必要だ。
- ・幼稚園や保育所では、保育人材の確保についても課題となっており、質の高い幼児教育・保育を実現するためには不可欠となる人材確保策

や離職防止策に取り組まなくてはならない。

- ・私立幼稚園や私立保育所については、今後の少子化の進展を見据えた運営の中で、安定した経営基盤の確保が必要となるため、公立施設と私立施設で過度な競合が生まれないよう、将来的には入所児童の利用調整が必要になると思われる。
- ・答申（案）中に、「幼稚園において預かり保育の実施など、ニーズに応じた取組を行っているものの、利用しづらさといった意見もある」と記載があるが、幼稚園の入園前には既に保育所を利用しており、途中で転園しづらいといった具体的な事由を記載した方がわかりやすい。
- ・最終答申（案）について、本日の各委員からの意見を反映して若干の修正を行い、最終答申とすることについて挙手による採決を行い、賛成多数で決した。

（４） その他

（今後の町の対応予定について）

- ・町への答申は、令和３年４月を予定。
- ・答申後、就学前施設再編整備方針（案）を策定し、議会への報告及びパブリックコメントの実施を経て、整備方針を決定し、公表予定。

７ 配布資料

- ・最終答申（案）

以上